

## 各地の取り組み 神奈川県 鎌倉市

# 子育てほど尊いものはなし

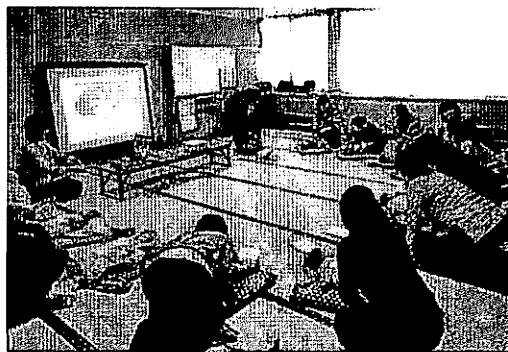
鎌倉女子大学短期大学部 講師 寶川 雅子

### 子育て支援に取り組み始めたわけ

私は現在、鎌倉女子大学短期大学部に勤務しております。乳児保育などの乳児を中心とした科目や保育実習に関わる科目を主に担当し、保育士をめざす学生に向けて授業を行っています。私自身も、以前は保育現場に勤務していましたが、時代の流れに従って乳幼児を取り巻く環境もだいぶ変化をし、それに伴って保育者の役割や責務も大きく変化をしてきたように感じています。私には、小学5年生の子どもが一人います。子どもの姿を見るたびに“どうしようもなくかわいいなあ”と感じています(もう10歳なのですが…)。しかし、そのように感じられるようになったのは、ごく最近のことなのです。周産期から幼児期後半頃まで、だいぶ長い間育児に自信が持てず、大きな不安の渦に呑み込まれている気持ちでいました。生まれてきた新しい命への親としての責任の重さをずっしりと感じ、どうしようもない不安感と孤立感に襲われていたのです。産後の体調も思わしくなく、自宅に引きこもりがち。そんな現状とは裏腹に、周囲からは子どもの世話は慣れているから“大丈夫”と思われていました。今振り返ると、不安ばかりを感じてもったいない時間だったなと思います。その時なりの精一杯を過ごしてきたから今があるのだとも思えるのです。当時は専業主婦で、住んでいた家は住宅密集地のアパート。実家も近くなく、核家族で周囲に知り合いもなく、夫は出張で留守がち。典型的な現代の子育て家庭でした。そのような環境で育児を行ってききましたので、私のように、“困っていることが人に伝わらないまま子育てを苦痛に感じながらも頑張っている人がいるはずだ”そんな人をいつの日か少しでも支援できたらと心に思い続けるようになりました(詳しくは『「育児は育自」一色真帆 著 文芸社』をご覧ください)。

### 神奈川県の取り組み

2011年度、神奈川県(次世代育成課)の委託で我々が実施した「神奈川県における児童虐待未然防止に関する調査研究」の中で、子育て支援プログラムについて報告したことがきっかけの一つとなり、神奈川県(次世代育成課)では、2012年度から2013年度にかけて親育ち支援事業の一環として「親育ち支援プログラム」に取り組み始めたのです。神奈川県の県中央児童相談所虐待対応策支援課が、既にコモンセンス・ペアレンティング(CSP)を活用した虐待対応力の実践向上に取り組んでいましたので、子育て、子育て支援、子ども虐待防止に関わる多くの方に様々なプログラムを



知って欲しいという目的もあり、次世代育成課では、Nobody's Perfect(NP)、トリプルP、親子の絆づくりプログラム“赤ちゃんがきた!”(BP)の3プログラムをモデル実施することになりました。私は、検討委員の一人としてこの事業に参加をしたのです。

親育ち支援事業のプログラムモデル実施は、実施希望の市町村が行うこととし、費用面は、神奈川県が安心こども基金を活用して担い、運営については、各プログラムを専門とするNPO法人が担い、参加者募集や場所の確保については実施する各市町村が担当するスタイルで行われました。連携という視点から考えると、理想的なスタイルであったと思います。検討委員のメンバーは、プログラムの効果を検討するための独自のアンケートを考案したり、プログラムの様子を見学し、プログラムの効果や課題について検討を行うことを行いました。

各プログラムを市町村で実施する際、市町村では参加者からの応募を待つだけではなく、子育て支援センターや母子保健等様々な連携の中で、時には保育士や保健師が母子に直接声をかけて参加を促すなど、状況に応じて市町村から母子に働きかけることも行っていました。またプログラム中も、ファシリテーターと市町村職員とが連携を図りながら毎回のプログラムがすすめられていました。そのような現場を実際に見学させていただき、実施団体と市町村との連携の必要性と大切さを実感しました。連携を行うことで、プログラムを実施したという事実のみで済ますことなく、募集からプログラム実施後にまで配慮をすることで、必要に応じた母子の支援が継続的に行えるのだと感じました。また、各プログラムに参加をした皆さんの表情が回を追うごとに明るく生き生きとしてきたことを目の当たりにし、プログラムの効果を感じましたし、参加者の皆さんの育児に対する気持ちの変化にわたくし自身もなぜか嬉しさを感じずにはいられませんでした。(詳しくは、『「親

## 多くの人の協力を得てBPを実施

育ち支援プログラム」導入ガイド神奈川県での取り組みに基づく効果的実施のための手引き平成26年3月神奈川県県民局次世代育成部次世代育成課』を参照ください。



### 鎌倉市での取り組み

神奈川県モデル実施が開始する以前より、鎌倉市では、各プログラム専門のNPO法人等との連携の中で、NP、CSP、トリプルPを活用し、子育て支援に取り組んでおりました。さらに、神奈川県でのモデル実施を機に、BPを導入して乳児期の子育て支援にも2013年度より取り組み始めたのです。私の職場が鎌倉市内であることや、BPファシリテーターの研修を終えたということもあり、鎌倉市でのBPプログラム開催時には、私もファシリテーターとして参加をさせていただきました。鎌倉市では、BP開催は初めてのことでしたし私も初めてのことでしたので、準備の段階からどのようなことでも連絡を取り合いながら進めていき、無事に終わることができたように思います。

BPを実施するにあたっては、参加者の交通の便を考慮した会場を抑えることが思いの外容易でなかったり、開催時期がどうしても1年の中で最も寒い時期になってしまうなど、いくつかの課題にぶつかりながら、少しでも参加しやすい条件を提供するためにはどうしたらよいのかと、一つ一つ悩み考え、相談しながらの準備でした。募集に関しては市の担当者が、母子保健等の関連部署や子育て支援センターなどにBP開催の声をかけてくださるなどの配慮などもしてくださりました。プログラム開催期間中には、大雪が降り交通機関がストップし、予定通りに開催できなくなるハプニングがありました。また、NHKが、産後早期からの自治体における子育て支援の取り組みということで、鎌倉市のBP実施の様子を取材するという出来事もありました（取り組みの様子は、2014年3月4日 NHK おはよう日本にて放映）。初めてのBP開催の中で、想定外の出来事がいくつもありませんでしたが、それでも参加者の皆さんが最後に「参

加をして良かった」「安心して赤ちゃんと一緒に出掛けられる場所だった」「BPのように、小さな赤ちゃんと一緒に出掛けられる場所が増えてほしい」「子育てをもう少し頑張ってみようと思えるようになった」などの感想を残してくださったことは非常にありがたく、最終回に参加者の皆さんが会場を去っていく時の表情を見ながら、私もとても嬉しくなりました。市の担当者の方は、プログラム実施後の参加者の様子も気にかけてくださいました。そして、今回のBPの取り組み結果を踏まえ、鎌倉市としては、2014年度に2回の実施を予定しております。現在、実施に向けて新たに動きだしているところです。

### 課題と今後の予定

私自身も、ある子育て支援プログラムに母親として参加をしたことがあります。正直なところ参加前は、「プログラムに参加をただで、子育ての何が変わるのだろう」と、半信半疑のところもありました。ところが参加をしてみると、なるほど、育児に変化がありました。まず、子どもの見方が変わりました。そして子どもとの笑顔あるコミュニケーションが増えました。また、参加者と育児について話し合えたことで、究極的な孤立感がなくなりました。これらの効果は、現在の育児にも生かされています。加えて、県の事業への参加や鎌倉市でのBP実施を通して、子育てをサポートするために、多くの方が関わっていることを改めて学びました。

人は皆、最初は赤ちゃんです。手間暇かけてもらい、長い年月をかけて大人になってゆきます。大人になると、このことをいついっ忘れてしまいがちです。しかし、低年齢の時期に、愛情を注いで育ててもらったからこそ大人としての今があるのだと思います。まさに、BPで言われている「思春期から花開く子育て」なのです。一般的に、子育ては誰にでもできる簡単なことと考えられがちです。しかし、よくよく考えてみると“子育てほど尊いものはない”と私は思うのです。私は、自身の子育て経験などから子育て支援に携われたらと願い、模索し続けてきました。そして、ようやく少しずつ子育て支援に携われるようになり始めました。大学での本務がありますので、BPを開催するにしても実施時期や時間などに制約がありますが、できることから少しずつ進めていきたいと思っています。現在は、周産期から幼児期に関わる様々な施設に声をかけてBPの普及に努めています。また、子育て支援や子ども虐待防止に関連する団体にBP実施の提案書を提出してBP実施を働きかけております。

子どもの育ちにとって大切な乳幼児期が母子共に安心して過ごせる時期となることを切に願いつつ、今後も子育て支援を続けていきたいと思っています。